

2. 多様な生き方・働き方を実現できる制度の設計

(1) ワーク・ライフ・バランスに関する多様なニーズの把握



本学の教職員が利用できる「育児・介護支援制度」について、わかりやすく説明した『妊娠・出産・育児・介護のための両立支援ガイドブック』を作成・配布しました。

(2) 女性研究者研究支援員制度の創設と実施

出産・育児・介護のために十分な研究時間を確保できない女性研究者（条件を満たした男性研究者も含む）に対して、「研究支援員」を雇用する制度を実施しました。平成24年度Ⅰ期は7名、Ⅱ期は9名を採択しました。利用者からは、「支援員のおかげで研究が大幅に効率化され、保育園の送迎や子どもの病気などが頻発するなかでも、計画通りの成果を出すことができた」といった声が寄せられています。

(3) 女性研究者研究支援体制の整備

女性研究者のさまざまな相談に応じ、ワーク・ライフ・バランスに関する多様なニーズに応えていくために、専門の相談室を設置しました。また、相談室に気軽にお立ち寄りいただきたいと、ワーク・ライフ・バランス相談員による「ワーク・ライフ・バランスカフェ」や女性の健康相談員による「女性の健康相談ミニ・セミナー」を定期的実施しました。

(4) 保育環境の整備

ダイバーシティ推進委員会内に保育環境整備を検討するワーキング・グループを立ち上げ、本学にふさわしい保育環境の整備について検討を進めています。

(5) 柔軟な勤務制度の検討

女性研究者へのヒアリングやダイバーシティ推進室相談、ダイバーシティ推進室フォーラム等を通じてニーズを把握し、検討を進めています。

3. 多様性による「新たな知の創造」

(1) 若手女性研究者の研究の活性化

若手女性研究者のキャリアアップを支援するため、前述のとおり、外部資金獲得に関するフォーラムを開催し、フォーラム後は、参加者が交流する機会をもちました。また女性教員と女子大学院生のメーリングリストを通じて、女性研究者に有益な情報を提供しています。

(2) 女性研究者の裾野拡大

本学の女性研究者の研究テーマや研究活動を紹介するロールモデル集を作成し、女子大学院生に配布しました。



文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業
「ダイバーシティを理念とする首都大学東京女性研究者支援事業」

平成24年度事業報告書(概要版)

首都大学東京 ダイバーシティ推進室

ダイバーシティ推進室 構成員

推進室長	首都大学東京 副学長	江原 由美子
室員	都市教養学部 人文・社会系 准教授	金 侖貞
	都市教養学部 人文・社会系 教授	岡部 卓
	都市教養学部 人文・社会系 教授	浜谷 直人
	都市教養学部 経営学系 教授	飯村 卓也
	都市教養学部 理工学系 教授	海老原 充
	都市教養学部 理工学系 教授	可知 直毅
	都市環境学部 教授	竹宮 健司
	システムデザイン学部 教授	串山 久美子
	健康福祉学部 教授	安達 久美子
	国際センター センター長	青村 茂
専任スタッフ	男女共同参画推進担当	太田 恭子
	障がいのある構成員支援担当	塚本 鶴樹
	女性研究者支援担当	島 直子

文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業

「ダイバーシティを理念とする首都大学東京女性研究者支援事業」 平成24年度事業報告書(概要版)

発行：公立大学法人 首都大学東京
連絡先：首都大学東京 ダイバーシティ推進室
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 図書館本館1階
電話：042-677-1111(内線2571)/直通：042-677-1337
FAX：042-677-1355
E-Mail：diverwww@tmu.ac.jp
URL：http://www.comp.tmu.ac.jp/diversity/
発行日：平成25年3月29日

※報告書(全文)の閲覧を希望される方は、ダイバーシティ推進室までお申し出ください。

文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」を、3つの柱を中心に実施しました。

1. ダイバーシティ実現のための意識啓発と環境改善

2. 多様な生き方・働き方を實現できる制度の設計

3. 多様性による「新たな知の創造」

1. ダイバーシティ実現のための意識啓発と環境改善

(1) 意識啓発

2012年6月、11月にダイバーシティ推進室フォーラムを、2013年1月に若手女性研究者支援フォーラムを開催しました。
2012年7月にニュースレター『ダイバーシティ通信』第3号、2012年12月に第4号、2013年3月に第5号を発行しました。

フォーラム「どうする？首都大の保育環境」2012年6月



▲宮浦氏 ▼(左から) 江原・高橋氏・浦田氏・姜・宮台 ▲ランチ交流会

講演「日本の大学における保育環境整備と一橋大学の取り組み」
浦田 三紗子氏(一橋大学博士後期課程)

「ワーク・ライフ・バランスに関するニーズ調査」にみる首都大の保育ニーズ
島 直子(ダイバーシティ推進室 特任研究員)

「各大学の学内保育施設整備の取り組み」

宮浦 千里氏(東京農工大学 教授)
高橋 道子氏(東京学芸大学 教授)

パネル・ディスカッション「首都大の保育環境整備に向けて」
＜パネリスト＞

浦田 三紗子氏
高橋 道子氏
宮台 眞司(首都大学東京 人文・社会系 教授)
姜 恩和(首都大学東京 人文・社会系 助教)
＜コーディネーター＞
江原 由美子(首都大学東京副学長・ダイバーシティ推進室長)

フォーラム「育児と仕事の両立をめざして」2012年11月



▼(左から) 吉田氏・鳥海氏・内藤氏・巖谷氏

講演「ファザーリング・ジャパンの活動とワーク・ライフ・バランスの施策」

吉田 大樹氏(NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事)

パネル・ディスカッション「育児と仕事の両立をめざして」
＜パネリスト＞

吉田 大樹氏
鳥海 基樹(首都大学東京 都市環境科学研究科建築学域 准教授)
内藤 準(首都大学東京 人文科学研究科社会学教室 助教)
巖谷 陽次郎(首都大学東京 都市教養学部法学系4年)

フォーラム「外部資金獲得のためのノウハウを学ぶ」2013年1月



講演「若手女性研究者が外部資金を獲得するために」
高樋 さち子氏(秋田大学教育文化学部環境情報講座 准教授)

ワークショップ「申請書を作成してみよう」
高樋 さち子氏

ニュースレター『ダイバーシティ通信』の発行

第3号 (2012年7月)



第4号 (2012年12月)



第5号 (2013年3月)



(2) 勤務環境の改善

南大沢キャンパス・日野キャンパス・荒川キャンパスそれぞれの女性研究者に、現状の勤務環境についてご意見やニーズをうかがいました。「祝日授業等の際に、保育サービス(一時保育など)があると安心して業務に臨むことができる。」などのご意見があり、今後、ダイバーシティ推進室を中心に検討していきます。

ダイバーシティ推進室は、平成24年10月1日に図書館本館1階に移転しました。室内には相談スペースを設け、専門相談員によるワーク・ライフ・バランス相談や女性の健康相談を受けています。その他にも談話スペースやおむつ交換台のあるトイレが設置されています。

(3) 女性研究者の雇用促進

教員公募に際しては「女性の積極的な応募を歓迎します」と明記するようにし、加えて学長裁量枠で女性限定公募を実施するなど、女性研究者の雇用促進を図りました。また、平成23年度に学部・系ごとに「女性研究者雇用促進及び環境改善計画」が策定され、それぞれの部局においても取り組みが進められています。

【具体例】

- 「ダイバーシティ推進行動計画」を具体化するための検討・実施を行うことなどを目的として、部局長直属のワーキング・グループを設置した。
- 公募の際、女性の応募を積極的に歓迎しており、複数の候補者の力量が同程度ならば女性研究者を優先採用することを申し合わせている。

学会・研究会・シンポジウム等への参加

文部科学省主催「女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウム—今後の女性研究者研究活動支援について—」(平成24年11月20日)に参加しました。女性研究者支援について、「女性研究者支援モデル育成事業」とその後の「女性研究者研究活動支援事業」によって得られた成果が検証されました。また今後の方策として、女性研究者を増加させるための施策や、女性研究者の研究・教育業績を向上させるための施策などについて検討されました。